

1/13 1/15 長崎大学における対話型特別講義 報告書

報告者 野村眞一 針山日出夫

長崎大学に於ける平成 26 年度の教養教育カリキュラムの全学モジュール科目として①教育と社会-環境と社会 (H27 年 1 月 13 日) ②現代の教養-暮らしと科学 (H27 年 1 月 15 日) の授業に対する講師派遣要請が同学教育学部・藤本登教授から到来し、SNW として対応した。聴講学生は医学部、歯学部、工学部、環境科学部、経済学部、水産学部専攻学生で、1 月 13 日が 43 名、1 月 15 日が 37 名の計 80 名。以下に講義の概要を示す。尚、この特別講義のテキスト資料と授業後の感想・疑問・質問に対する講師回答メモは SNW の HP に掲載します。

<1 月 13 日 演題：エネルギー問題と日本社会 講師：針山日出夫>

【概要】

学生や市民にとって、時代のうねりの中で自己を見つめ見識を高めつつ自分の意見を持つことが強く望まれる。今回の講義では、エネルギー問題を一つの題材として、世界のエネルギー事情を俯瞰して日本の選択の在り方について考えることにした。また、日本社会がエネルギー問題や原子力の利活用継続についてどのように受け止めているかについての実態を理解し、そのような実態になる根源的理由や背景的要因について考察するべく以下のトピックスについて要約した。なお、授業時間 90 分のうち、各トピックス説明の都度、学生との対話を計 20 分程度試み双方向の意思疎通ができたものと思う。

<特別講義のトピックス>

- － 東電福島原発事故が日本に齎したものは何であったのか
- － 原子力に対する日本社会の受容性は如何なるものか
- － 近代科学文明のリスクと便益を身近なことから考えてみる
- － エネルギー問題の論点とこれからの日本の選択

尚、講義では以下の如き視点、問題意識を持って聞いてもらいたいと思っていたが授業での対話並びに事後のやり取り通して一定の理解が得られたと思う。

- ① エネルギー問題とは世界を見渡し、国の将来を考えると何か？
- ② 日本はエネルギー問題等の重要な国策について意見の対立を乗り越えることが出来るか？
- ③ 原発問題に代表されるトランスサイエンスの問題に対して日本は有効な解決プロセスを構築できるか？
- ④ 文明の恩恵を享受し、リスクを受容するとはどのようなことか？

以上

<1月15日 演題：地球環境とエネルギー問題 講師：野村真一>

【概要】

地球環境とエネルギー問題を精緻に理解してもらうことを念頭に最新のデータや情報を網羅し、その上で双方向対話を意識した授業を行った。

(授業の目論見全般)

人類は、薪炭・風力・水力をエネルギー源とした農耕・牧畜中心の生活を経て石炭の利用を始め、これに加え、石油・天然ガス、更に、原子力の利用でエネルギーの大量確保が可能となり、この結果、産業が急激に発展し、生活環境の面でも快適と便利さを享受でき、人口も急増した。今後、発展途上国でのエネルギー消費の増大、及び、人口の爆発的な増加が予想され、これに伴い、エネルギー資源の確保と地球環境保全が喫緊な問題となってきた。

一方、我が国のエネルギーは自給率6%と低くて大半を海外に依存し、その消費は、運輸部門（全消費量に対して23.3%、1973年比で1.9倍）、業務部門（19.6%、2.8倍）、家庭部門（14.2%、2.1倍）、産業部門（42.8%、0.9倍）となっている。この状況を見ると、産業部門では省エネの効果が認められるが、生活環境に関連の深い家庭部門や業務部門での消費量の増大が顕著であり、これに対応するためには、省エネルギーへの取り組みと同時に、将来に亘ってエネルギー確保と地球環境保全を両立できる施策の実行が急がれる。

(授業の具体的内容)

今回の授業では、まず、エネルギーについてその概要を説明し、次に、東電福島第一原子力発電所事故から見えてきた国内のエネルギー問題、海外のエネルギー事情を説明した。更に、エネルギー問題で期待されている再生可能エネルギーの現状と課題を説明し、最後に、これらを纏めて、安定・廉価で、且つ、地球環境保全の観点でCO₂排出量削減に向け、短期～長期に視点を置いた適正な電源構成の必要性を述べ、日本の現状と世界情勢を基に、エネルギー問題に関する客観的に議論・評価の参考になる情報を提供した。

合計90分の授業では、約25分を使って対話にあて学生の意見/発言を引き出すべく注力した。授業で意図したことは十分咀嚼され理解してくれたものと思います。

以上